中高年期のウェルビーイングと健康調査への再帰要因

アメリカでの縦断調査 MIDUS と比較した日本の縦断調査への参加要因の検討

○上田理紗子¹・唐澤真弓²

(¹東京女子大学大学院人間科学研究科・²東京女子大学現代教養学部)

キーワード： 縦断研究 中高年 健康状態 教育歴 再帰率

Who Participates? Accounting for Longitudinal Retention in the MIDJA Study of Health and Well-Being

Risako UEDA¹ and Mayumi KARASAWA²

(¹Graduate School of Tokyo Woman's Christian Univ., ²Tokyo Woman's Christian Univ.)

Key Words: Longitudinal Study, Middle age, Health status, Educational level, Retention

目 的

大規模な社会調査が行われる中で、どのような特性をもった参加者が研究に参加するのかが、大変興味深い問題である。多くの研究のなかで、社会的デモグラフィック要因と健康が調査継続の関連することが示されてきている (Fitzgerald, Gottschalk, & Moffitt, 1998; Kapteyn, Michaud, Smith, & van Soest, 2006; Lindenberger et al., 1999)。白人系で、女性、既婚、高学歴の研究参加者が研究を継続的に参加してきていることが示されている。デモグラフィック要因に加えて、中高年期を対象とした研究では、研究参加者の健康要因、身体的健康が高ければ縦断研究に参加する割合が高いことを示している。Radler ら (2010) は、400 にわたるデモグラフィック・心理要因と主観的健康、身体的健康要因の指標をもつ、米国版「Midlife in the United States Survey (=MIDUS)」の縦断研究参加の予測因を分析し、デモグラフィック要因に加えて交互作用効果を見いだしている。縦断研究参加を予測する要因として、a) 健康度の効果の程度は、若い年齢層より年齢の高い層で強いこと、女性のほうが男性よりも強いこと、b) 既婚であることは、白人系のほうが非白人系よりも強いこと、男性より女性で強いこと、c) 経済の程度はより健康行動が低いもので強まることを見いだされてきている。

本研究では、MIDUS 研究に対応した日本版「Midlife in Japan (=MIDJA)」の二次調査参加者の特徴をとらえ、アメリカでの結果と比較することにより、縦断研究のもつ課題を検討することを目的とした。これまでの研究で、健康やデモグラフィック要因がウェルビーイングを予測することに文化的差異があることがみだされており、縦断研究参加者の予測因にもその差がみられることが予測されるためである。

方 法

対象データ アメリカにおいて中高年期の幸福感を検討するために行われた調査 (MIDUS : 3032 名) に対応して日本人の幸福感を検討するための調査 (MIDJA : 1027 名) データを使用した。Table 1 に示すように、日米でほぼ同様のサンプルの特性が認められる。2008 年に行われた一次調査 1027 名に対して、2012 年に実施された二次調査では 657 名 (67%) の参加が認められた。

Table 1 MIDUS と MIDJA の一次調査参加者

	MIDJA		MIDUS	
	M	SD	M	SD
Age	54.4	14.1	56.9	12.6
Gender	0.51	0.5	0.55	0.5
Education	4.24	1.69	4.58	1.66
Physical Health	6.22	1.97	7.27	1.65
# of Chronic Condition	2.3	2	2.56	2.56
HealthLimitation(IADL)	1.45	0.71	1.82	0.9

分析方法：MIDJA の一次調査データアーカイブに二次調査参加の可否の変数を作成した。従属変数として、年齢(Age)、性別(Gender)、教育(Educational Attainment: 教育年数)、結婚の有無(Marital Status: 現在結婚している)、身体的健康自己評価(Physical Health: この12ヶ月でどのくらい健康だと思いますか、10ポイント)身体的症状の数(Chronic Condition: e.g., 頭痛がする)、身体的制約 (IADL: e.g., 階段をあがることができない) を独立変数としてロジスティック回帰分析を行った。

Table 2: Full Logistic Regression Model Predicting at Time 2 in MIDUS and MIDJA(Odds Ratio)

	US	JPN
Age	1.16 ***	1.019 ***
Gender	1.29 ***	1.366 *
Education	1.47 ***	1.121
Marital Status	1.53 ***	1.307
Physical Health	1.23 ***	1.079 *
# of Chronic Condition	1.03	1.028
IADL	0.8 **	0.665 ***

結 果

Table2 に MIDJA と MIDUS の結果を示した。アメリカでの結果は、Radler らの結果 (2010) を示したものである。アメリカと日本では共に年齢や性別が有意であったが、日本ではアメリカよりも身体的制約の効果が強く、教育歴に関しては有意ではなかった。このことは日本における教育歴の効果が幸福感に与える影響がアメリカにくらべて弱いことと同様の結果といえる。このことは、アメリカにおける社会格差に比べて、日本におけるレンジが狭いことによるものではないかと推測できる。身体的制約に関しては、日本でのデータが公共交通機関を利用した参加となっており、アメリカよりもやや強く影響したとも考えられる。

考 察

今回の結果は、日米データの直接比較ではないため、多くの結論を得ることは難しいが、縦断調査の結果を解釈していく上で、どのようなサンプルがとどまっているのかに社会文化的要因による影響があることを示唆した点で、意義あるものであったと考えられる。今後、文化にある心理変数をふまえたモデル (たとえば思いやりなど) を検証していくことが重要であろう。

引用文献

Radler, B. T., & Ryff C.D., (2010) Who Participates? Accounting for Longitudinal Retention in the MIDUS National Study of Health and Well-Being, *Journal of Aging and Health* 22(3) 307-331.

(本研究は、「MidLiFe in JAPAN」(東京女子大学受託研究費) の助成を受けて行われた)。